



安来圏域医療従事者スキルアップセミナー



皮膚・排泄ケア
認定看護師

石飛 仁美

いただいたところ、要望テーマも数多く、結果、予防編と治療編の2回コースに分けて行うことになりました。まずはセミナーのテーマ決定に迷いましたが、高齢化がますます進むなか、だれもが日頃からどこででも脆弱な皮膚を意識してみて欲しいとの私の願いから『みんなの「目」で地域の皮膚を守ろうパート1～褥瘡・キンテア予防対策編～』をテーマとしました。

平成29年9月28日の平日、18時から20時までの長時間にわたり約70名の多職種の参加を頂きました。今回は、予防ということで褥瘡・スキ



ンテアの基本的な概論から予防対策について保湿ケアの演習を交えながらお話を頂きました。キンテアとは、「摩擦ずれによって皮膚が裂けたり剥がれたりする真皮深層までの皮膚損傷をいう（日本創傷・オストミー・失禁管理学会2015）」といわれており、褥瘡発生がなかなか減少しない要因の一つにも挙げられ、脆弱な皮膚への対策が必要となっています。キンテアは褥瘡を語るのに、切っても切り離せない概念であると思っています。セミナーを通して、キンテアについて初めて知った、保湿剤の塗り方、ポジショニングなど学ぶことができてよかったです、実践に活かしていくことを意識して取り組めるよう意識していきたいとの多くの声を頂きました。また、私が日頃、意識している看護の姿勢も経験を交えながらお話をしたことが参加した方に伝わったという声も伺うことができ、大変嬉しく思いました。みなさんと共に皮膚を意識したあつという間の2時間でした。

次回は12月7日、治療編について、またまた2時間語り尽くそうと思っています。

新任医師紹介



小児科医師

門脇 朋範

H29.10.1

10月から働かせて頂きます小児科の門脇です。島根県雲南市出身で、島根大学卒ですが、2年間岐阜大学で勉強して、また松江で働かせて頂きます。精一杯頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

退職者

●平成29年7月31日付

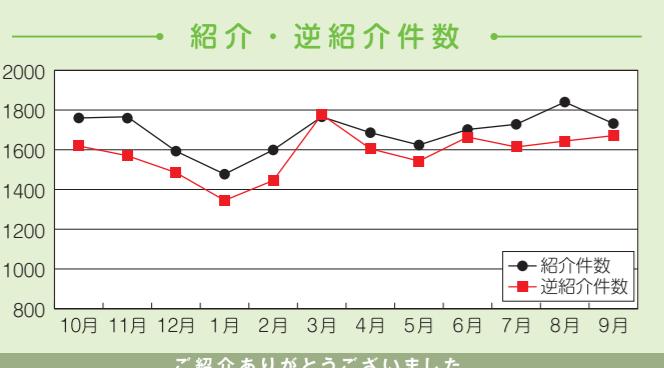
小児科副部長 遠藤 充

●平成29年9月30日付

小児科副部長 石井 朋之

●平成29年9月30日付

血液内科医師 前角 衣美



松江赤十字病院 地域医療連携課
〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261



れんけいだよ



最新PET-CT装置更新の紹介



放射線科部技師長
磯田 康範

地域の先生には、いつも検査のご紹介を賜り厚く御礼申し上げます。

松江赤十字病院がPET-CT検査を開設したのは平成17年10月。PET検査という名前すら一般に認知されていない時代でした。当初PET設置数は全国

でも数台であり、中国・四国地方では3台目のPET-CT機器導入でした。以来12年間、約2万3400件（平成17年10月～平成29年9月）の実績のもと中国地方ではPET検査画像診断のパイオニア的存在であります。

当院は、この度、平成29年11月世界初の新世代最先端PET-CT装置を導入いたしました。この装置は世界トップクラスの研究機関にまだ数台しか設置されていません。PETは光信号で病変を発見しますが、それを電気信号に変える際に、これまでの装置は真空管を使用していました。新機器では、それを半導体に変

える事で画像作成などの処理スピードが格段に速くなりました。また、画像ノイズが減り病変描出の精度が格段に上がっています。これにより、病変を診る解像度は約2倍となり、検査に必要な時間も短縮可能となります。更に、CT部分にも改良を加え、従来は1回転で16スライス程度の画像が1回転128スライスにまで細かく、より小さな病変の発見も容易になりました。このことは、脳の細かい解剖まで分かるので、認知症診断に適応が可能です。さらにCT線量を抑え被ばくの低減、金属アーチファクトの低減とハイレベルな性能となりました。

検査薬剤もブドウ糖PETに加え、アミノ酸PET、アミロイドやタウなどの薬剤が1～2年のうちに導入される予定です。従来に比べ、さらに細かい早期がんの発見も可能となり、また将来的には早期認知症への適応も視野に入れ、高齢化が進む現代の大きな光になればと思います。

（図1：導入された半導体PET-CT、図2：肺がんサイズ描出）



図1 最新PET装置
Discovery MI GE社製

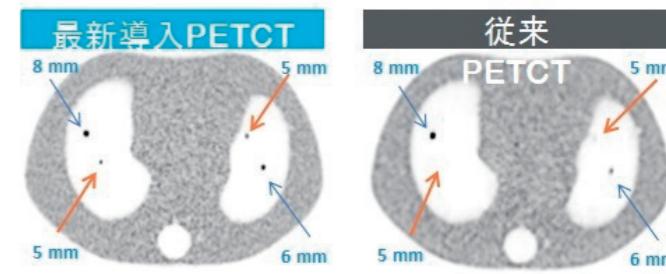


図2 肺ファントムにて病変サイズの比較
最新では5mm描出可能



第11回

地域医療従事者スキルアップセミナー

「嚥下調整食」実演と試食～とろみとゼリーの違いについて



栄養課長補佐
安原みづほ

今回のセミナーのテーマは“誤嚥性肺炎”でした。誤嚥性肺炎の予防のため、摂食嚥下機能に配慮した食事が必要です。今回は、より理解度を高めるため、試食も準備しました。

食事選択のための食形態の指標はいろいろありますが、当院では、日本摂食嚥下リハビリテーション学会の「嚥下調整食学会分類2013」を使用しています。どのコードも、固体化補助食品でゼリー状にするか、とろみ調整食品でとろみをつけて仕上げます。飲料水のとろみの濃さも重要で、薄いとろみ、濃いとろみ、中間のとろみがわかるよう、この3段階のとろみ茶と、お茶ゼリーを試飲してもらいました。とろみとゼリーは食感やのど越しも異なり、どちらが適しているかを評価する必要があります。今回はその違いを感じるための試食も準備しました。安全に食事をしてもらうための加工ですが、栄養量の確保も同時に考え、サルコペニア



の予防もしたいところです。嚥下機能に配慮した栄養補助食品も市販されていますので必要な場合は利用します。

学会分類は全国的にも普及され、認知度も上がっていますが、各施設の対応状況には差があります。「全粥ゼリーがあれば転院できるのにな。」ということが何例もありました。導入のきっかけになればと思い、実演も行いました。当院の食事も改良を重ねていく予定ですが、栄養管理のシームレスな連携のため、嚥下調整食の整備をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。



松江市社会福祉協議会 松江市在宅医療・介護連携支援センター 保健師 桑原 なおみ

当センターでは日頃より地域の在宅医療・介護関係者の皆様の連携を深めるために相談窓口を設けておりますが、もっともっとご活用いただきたいと考えております。ご相談内容や皆様から教えていただく在宅療養される方の状況等をもとに松江市の現状を把握し、連携体制の構築へ取り組めるからです。今回のポスター展示・発表では沢山の方に当センターの活動状況をお伝えできる機会となりました。

ポスター展示・発表は、地域の皆さんのご活躍を感じる大変興味深い内容でした。講義は地域全体で誤嚥性肺炎に取り組む重要性や、とろみ・ゼリー食の試食を通じ五感で食の大切さを実感する盛り沢山の内容でした。また、何より発表した自分自身・センターのスキルアップになりました。今後多くの方が参加・発表され、活発な交流の元、ますます地域医療・介護が発展することを期待しております。末筆になりますが、松江赤十字病院の皆様には大変にお世話になりました。貴重な機会をありがとうございました。



特別養護老人ホーム 明翔苑 管理栄養士 川上 明日香

「高齢者の咀嚼・嚥下機能を考慮した食事の検討～食べる喜び、生きる力を支援して～」について発表をさせていただきました。

当苑では、美味しい物を食べて、また頑張ろうと生きる力が湧いてくる食事を提供する事を心がけています。誤嚥性肺炎や低栄養を予防する食事を提供するのはもちろんの事、生きるために食べるのではなく、味も美味しい、見た目も美味しい食事であり、食べることを楽しんでほしいと思っています。

また、退院後、病院と同じ食事形態で対応できるように、嚥下調整食学会分類2013に合わせた食事を提供しています。

これからも、多職種で連携し、ご本人の希望を聞きながら、個々に合わせた食事の工夫をし、美味しい食事を食べていただけるように努力したいと思います。

今回の研修に参加させていただき、医師や社会福祉士、歯科衛生士、言語聴覚士など、色々な視点から誤嚥性肺炎予防についての話が聞けて大変勉強になりました。ありがとうございました。



社会福祉法人みづうみ 特別養護老人ホームうぐいす苑 歯科衛生士 北村 恵

今回、地域医療従事者スキルアップセミナーのテーマ「誤嚥性肺炎」を受け、特別養護老人ホームうぐいす苑として、ポスター発表に参加させていただきました。

当苑でも、「誤嚥性肺炎」はご利用者の生命、生活の質に関する大きな問題として取り上げられてきました。毎日の口腔ケアを大切にし、苑をあげて取り組んだ結果、誤嚥性肺炎ゼロを1年以上にわたり達成出来ている事から、多職種で取り組むことの大切さとその効果を実感しました。また、この取り組みを振り返る良い機会を頂いたことを感謝いたします。

今回のセミナーでは、病院から在宅、施設での取り組みや支援についてのポスター発表や講演を拝聴し、「連携と協働」の大切さを再確認しました。

今や日本人の死因第3位となった「肺炎」を防ぎ、その方らしい人生を送るための支援は、今後も私たちの大きな課題です。地域での職種・職域がその垣根を超えて関わっていきたいと思います。

